

令和3年 9月15日 No.74

編集・発行


 那加三地区
社会福祉協議会

社協

那加三地区だより

やさしい心とおもいやり あなたがひろげる福祉の輪

近隣ケアグループの活動の充実をめざして



① 代表者懇談会(5/11) 出席者38名

那加三地区 27 の近隣ケアグループ代表者が一堂に会して、より良い活動をするため、下記の情報交流等を行いました。

①自己紹介 ②代表者・グループ員の選出方法 ③選出にかかわる問題点
④グループ長と自治会との連動状況 ⑤ケア活動の状況や、グループ員との情報交換等について

高齢化社会が進み、自助・共助・公助といわれる昨今において、近隣ケア活動が一層重要な役割を担うこととなります。

反面、個人情報等の問題が壁になる場合もあり、自治会長や民生・児童委員との情報交流を密にし、きめ細やかな活動を推進していくことが大切であるとの共通認識をしました。



② 第一回研修会(6/15) 出席者59名

コロナ禍において密集を避けるため、研修会参加者を近隣ケアグループ員に限定して開催しました。まず、市社協・地域福祉課の細野誠主事より、社会福祉協議会および近隣ケアグループの活動について、その関わりや役割を具体例を挙げながらお話をいただきました。近隣ケアグループの役割は、地域に住む見守りが必要な高齢者・障害者・子供等を、「見守り・声かけ」等を通じ異変に気づき、支援や状況を地域（自治会・社協等）へつなげることです。年々高まる高齢化の中で、近隣ケアグループの役割は益々大切になっていることを認識しました。

〈高齢化率・5年間の変化 R3.4.1 現在〉

	R.3	R.2	H.31	H.30	H.29
那加三地区	26.5%	26.7%	26.3%	26.8%	26.8%
各務原市	28.5%	28.1%	27.8%	27.4%	26.9%

地域包括支援センターの菅原いずみ主査からは、高齢者やその家族の皆さんが抱える悩み・心配事等お困り事があれば、「お気軽にご相談ください」と呼びかけがありました。

各務原市地域包括支援センター 社会福祉協議会

〒504-0912 各務原市那加桜町2丁目163番地
TEL058-383-7624 FAX058-382-3233



近隣ケアグループ研修会アンケートより

アンケートへのご協力ありがとうございました。
一部抜粋させていただきました。

◇近隣ケアグループ活動年数（回答者 39名）

年数	1年目	2年目	3年目	4～5年目	6年以上	計
人数	19	5	5	8	2	39
構成	48.7%	12.8%	12.8%	20.5%	5.2%	100%

◇那加三地区社協の活動について

	1年目	2年目	3年目	4～5年目	6年以上	計	構成比
あまり知らなかった	12	2	1	2		17	43.6%
ある程度知っていた	7	3	4	6	2	22	56.4%
計	19	5	5	8	2	39	100%

◇近隣ケア研修会に参加して感じたこと

- ・社協の方も包括支援センターの方もわかりやすく説明してくださったので、理解が深まった。
- ・詳しく説明してくださったので、社協・近隣ケアの仕組み、仕事内容がよくわかった。
- ・初めての参加でした。見守り、声掛けが大切だと感じました。
- ・何気ない会話や様子から背景を読み取ったり、気に掛ける事の大切さを感じました。
- ・どこまでかかわっていいのか、人それぞれの感情がある分、難しいと思いました。
- ・人と人の助け合い・繋がりを作る事の大切さがよくわかった。
- ・いろんな人との意見交換があり参考になった。



③ ご近所「畑」事業の開始 (5/23)

ご近所畑事業とは、プランターでの野菜づくりにより、ご近所が自然とつながる「キッカケ」をつくる、新しい「カタチ」の見守り事業です。

今回は、プランターにミニトマト・中玉トマトの苗を植え付け、見守り対象宅等 30 力所に設置していただきました。管理はみなさんで水やり等のお世話、収穫したトマトのお裾分けをする等野菜作りを通じて顔の見える関係づくりを目指します。



〈ご近所「畑」のその後〉



ボランティアハウス懇談会 (5/25出席者19名)

ボランティアハウス 6 グループ (うち 1 グループ欠席) の代表スタッフによる懇談会が実施されました。各グループによる活動状況の発表後、現状における課題や問題点、コロナ禍における工夫等について意見交換されました。

参加者に愉しんでもらうため、各ハウスとも努力されていました。



暑中見舞いはがき ~心を込めて書きました~

今年も那加第三小学校の 71 名 (5 年生 68 名、特別支援 3 名) の皆さんが、113 名のお年寄りに 226 枚の「暑中見舞いのはがき」を書いてくれました。



地域コミュニティ会議の開催 (7/20出席者14名)

市社協・地域福祉課の多田羅洋主査から社会福祉計画、地域福祉活動計画およびペアワークの進め方等の説明を受けた後、メンバーを 5 つのグループに分けて進行。

- ①事例集から気になった理由
- ②私たちの地域に取り入れるならどうするべきか
- ③ワクワクする事業名称を考える
- ④事業の狙い

等について相談し、発表は事業名称と工夫の点などを報告し、他のグループの発表時にはその内容を「評価シート」で採点するというものでした。

コロナ禍における「コミュニティ会議」であることから、地区社協のメンバーのみでのペアワークでしたが、より多くの参加者による多様な意見交換の場であることが望まれます。

